

令和7年度
薬学教育プログラム
評価報告書

評価対象年度 令和6年度

岩手医科大学 薬学教育評価委員会

令和 7 年度薬学教育プログラム 自己点検・評価結果について

薬学教育評価委員長
西谷 直之

(1)概要

薬学教育評価委員会が実施する「教育評価」では、本学の内部質保証活動のうち、薬学部の教育プログラムレベルにおける自己点検・評価を行っている。また、この教育評価は、内部質保証の強化と、改善状況の明瞭化を目的として、令和 6 年度より活動の内容を刷新した。

教育評価は、薬学教育評価委員会が薬学教育プログラムについての評価を通して教務委員会に提言を行い、さらにその提言に対する教務委員会改善状況を評価することで、本学の薬学教育プログラムの質の保証・向上を目指すものである。

(2)令和 7 年度自己点検・評価結果および改善状況について

本年度は薬学教務委員会が行う教育プログラムに対して、薬学教育評価委員会より提言(10 項目)を行い、教務委員会に改善計画の実施と改善報告書の作成を依頼した。

その後、教務委員会が作成した改善報告書に基づき、薬学教育評価委員会が状況の評価を行い、その結果は以下のとおりであった。

- ・ 改善状況 A(改善された) … 1 項目
- ・ 改善状況 B(改善計画の継続が期待される) … 9 項目
- ・ 改善状況 C(改善計画の見直しが必要) … 0 項目

詳細は別添「薬学教育プログラム 自己点検・評価 改善報告書」参照

(3)当該年度の教育評価について

薬学教育評価委員長総括：

当該年度の教育評価は概ね計画どおり進行し、活動に問題はなかった。

教務委員会に行った提言のうち、改善状況 B として評価した項目については、引き続き改善を求め、本学の薬学教育プログラムの更なる質の向上に貢献していきたいと考えている。

また、教育活動の指標となる評価・点検項目については、学生委員および外部委員を含めた薬学教育評価委員の意見を取り入れながら、次年度以降、更に洗練したものにしていきたい。

薬学教育プログラム 自己点検・評価
改善報告書に対する検討結果

薬学教育評価委員会

令和8年5月22日

■ 提言内容

整理番号	シート1 / 点検・評価項目9
点検・評価項目	カリキュラムマップ等、カリキュラムの体系的性と科目の順次性を示す図を作成し、学生に周知している。
教務委員会の自己点検・評価の詳細	カリキュラムマップを教務委員会で作成し、全学年のシラバスの巻末に、各学年の入学年度のカリキュラムに準拠したカリキュラムマップを明示している。また、年度始めの薬学部ガイダンスにおいて、教務委員長が学生に説明を行なっている。
薬学教育評価委員会提言内容	学生側の認識は不足しています。カリキュラムマップの存在の周知ではなく、カリキュラムの体系的や科目の順次性を周知することが望まれます。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
改善状況の詳細	
今後の改善計画 (改善が未了の場合)	年度始めのガイダンスでは、シラバス記載のカリキュラムマップを学生に提示してカリキュラムの全体像と現時点での到達点を確認させ、科目の関連性と順次性を説明している。ただし、学生側の理解が十分ではない可能性はあるため、カリキュラムに関する意見聴取の結果（根拠資料1）等を検証しながら、今後はさらに丁寧に説明を行う予定である。
根拠資料	根拠資料1：令和7（2025）年度 薬学部カリキュラムに関する意見聴取結果（令和7（2025）年度 第11回 薬学部定例教授会資料）

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会によるコメント	学生側の理解が進むよう、ガイダンス等での丁寧な説明に期待する。また、必要に応じて順次性を示す図のスリム化などの検討が望まれる。カリキュラムに関する意見聴取は、サンプル数に限りがあること、回答することの煩わ

(評価がB又はCの場合)	しさによるバイアスが懸念されることから、慎重な検討が必要と考えられる。
--------------	-------------------------------------

■ 提言内容

整理番号	シート3 / 点検・評価項目6
点検・評価項目	学年別在籍状況において、ストレート在籍率が著しく低下している学年がなく、適切な数値である。若しくは、低下している学年があるが、原因と思われる学習方略の検証や改善に取り組んでいる。
教務委員会の自己点検・評価の詳細	基礎資料3-1に示した様に、ストレート在籍率は、1年次100.0%、2年次88.6%、3年次78.1%、4年次87.2%、5年次73.8%、6年次70.8%であり、著しく低下している学年はなく、概ね適切な数値である。
薬学教育評価委員会提言内容	ストレート在籍率が以前よりも改善されているかを示すことで、取り組みの妥当性を示してください。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
改善状況の詳細	
今後の改善計画 (改善が未了の場合)	低学年のときから日頃の学修習慣が身につくように、科目担当者とクラス担任、学年長が協力して手厚い指導を行っている。各期の定期試験に合格しても、その知識は時間とともに抜け落ちて結局は上位学年で苦勞することになるため、主要な科目については半期の経過後に再度演習と試験を実施することで、基礎知識の定着を図っている。定期試験に合格できず再試験の対象となった学生に対しても、科目ごとに課外の補習講義を行って合格への道筋をつくりながら、十分な学力をつけたことを確かめたうえで上位学年へ進級するように配慮している。このような取り組みにより、ストレート在籍率は近年では概ね改善傾向が認められる(根拠資料2)。今後も実績を検証しながら、継続して取り組む予定である。
根拠資料	根拠資料2: ストレート在籍率

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会 によるコメント （評価がB又はCの場合）	ストレート在籍率の改善が認められる。継続的な取り組みに期待する。一方で、課目の順次性が整理されていれば、半期経過後の再度演習と試験に頼らない形でも基礎知識の定着が図れるとも考えられる。

■ 提言内容

整理番号	シート3 / 点検・評価項目8
点検・評価項目	直近5年間における学士課程修了（卒業）状況の実態において、卒業率に経年的な低下が見られない。
教務委員会の 自己点検・評価の詳細	基礎資料3-3に示した様に、学士課程修了（卒業）状況の実態において、卒業率は49.2%から64.3%、ストレート卒業率は40.6%から49.0%の範囲にあり、全体として低値であるが、経年的な低下の傾向はない。
薬学教育評価委員会 提言内容	確かに経年的な低下とは言えないものの、低値での安定が良いとは思えません。改善計画があればお示しください。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
改善状況の詳細	
今後の改善計画 （改善が未了の場合）	「シート3 / 点検・評価項目6」の「今後の改善計画」で記載した各学年における取り組みとともに、最終学年となる6学年ではさらに学生一人に必ず教員がチューターとして割り当て、卒業に向けたサポートを行っている。全教員が担当する6年間の総復習の講義を行うとともに、総合試験の後にはフィードバック講義を行い、不十分なところを学生自身に確認させながら、学修目標の到達に向けた指導に努めている。さらに第2回と第3回の総合試験の前には、特に成績が伸びない学生を対象に基礎知識の定着と苦手克服を目的に特別な演習を実施している。ストレート卒業率が依然として低値で推移しているが、このような取り組みの結果は時間を経て現れることもある。今後も取り組みの成果を評価しながら、さらなる改善に努める予定である。

根拠資料	
------	--

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会 によるコメント （評価がB又はCの場合）	手厚い指導体制を構築していることは評価できる。しかし、ストレート卒業する学生にとって卒業は1度きりである。「このような取り組みの結果は時間を経て現れることもある。」は、何年間観察すれば検証できるのか検討する必要がある。

■ 提言内容

整理番号	シート5 / 点検・評価項目13
点検・評価項目	実務実習の開始前に実習施設が作成する実務実習実施計画について、実習生担当教員が確認を行っている。
教務委員会の自己点検・評価の詳細	実務実習指導・管理システムに登録された実務実習実施計画書を実習開始前に確認するよう、各担当教員にE-mailで連絡をおこなっている。ただし確認後の報告は求めているため、実際に確認したかは実務実習部会において把握できていないため、確認後の報告を義務づける準備をすすめている。
薬学教育評価委員会提言内容	実習施設が作成する実務実習実施計画について、実務実習部会による最終確認が必要だと思われます。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
改善状況の詳細	実務実習開始前に学生指導担当教員が「実務実習計画書」を精査する体制へと移行した。あわせて、薬学部で運用中のサイボウズを活用し、巡回指導報告書の提出時に「実習スケジュールの確認実施状況」の報告を義務化することで、指導の履行確認を徹底している。なお、現時点では実務実習部会において「計画確認の有無」の把握に留まっており、今後はその内容の妥当性評価についても対応の準備中である。
今後の改善計画 (改善が未了の場合)	実務実習指導・管理システム上の実習計画書は、所属分野のログインIDによる閲覧制限があり、実務実習部会員が直接確認できない仕様となっている。この課題を解消するため、今後は学生指導担当教員が計画書をファイル出力し、実務実習部会へ提出する運用を徹底する。これにより、実務実習部会において各計画の内容を精査し、必要に応じて助言や修正指示を行う等、組織的なチェック体制を構築・維持する。
根拠資料	根拠資料3：2025年度実務実習施設巡回指導報告書

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
------	---

薬学教育評価委員会 によるコメント (評価がB又はCの場合)	実務実習部会による確認が期待される。
--------------------------------------	--------------------

■ 提言内容

整理番号	シート6 / 点検・評価項目2
点検・評価項目	学生の資質・能力・向上に資する学習・教授・評価方法を導入している科目がある。(別紙等で学習・教授・評価方法ごとに該当科目の一部を列挙すること)
教務委員会の 自己点検・評価の詳細	学生の資質・能力の向上を目指して、主に1年次～3年次において参加型学習、グループ学習、自己学習を充実させており、学生が能動的に問題解決に取り組めるよう工夫された学習方法により体系的に実施している。これらの科目は、薬剤師が社会に求められる資質・能力の育成に密接に関連し、高学年におけるDPに掲げる資質・能力の育成の基盤になると考えられることから、本学のカリキュラム・ポリシーの全ての項目に関わる重要な科目として捉えている。 資料：シラバス、別紙
薬学教育評価委員会 提言内容	資料：別紙は、何を指しますか？関連資料に含めるかご検討ください。「体系的に実施している」ことを具体的に示すか、文言を工夫してください。

■ 改善状況について

改善状況	改善が完了した
改善状況の詳細	学生の資質・能力の向上のために、能動的な学修方法（アクティブ・ラーニング）やICTを積極的に活用している。例えば多職種連携を学ぶために、「多職種連携のためのアカデミックリテラシー」、「早期薬学総合学習」、「チーム医療リテラシー」、「4学部合同セミナー」などの科目を順次開講し、薬剤師に必要な問題解決能力の修得・醸成を図っている。各科目においてこれらの学修方法を導入することで習熟度を段階的に確認するとともに、薬学専門科目と関連づけた体系的な学修となるようにカリキュラムを編成している。資質・能力の向上に資する学修・教授・評価方法を導入している科目の例を根拠資料4に示した。
今後の改善計画 (改善が未了の場合)	

根拠資料	根拠資料 4：学生の資質・能力の向上に資する学修・教授・評価方法等を導入している科目の例（令和7年度）
------	---

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会 によるコメント （評価がB又はCの場合）	

■ 提言内容

整理番号	シート9 / 点検・評価項目3
点検・評価項目	異議申立の制度について、学生に周知を行っている。
教務委員会の自己点検・評価の詳細	異議申立の制度については、年度初めの学年ガイダンスにおいて説明するとともに、制度の内容や受付期間等を示す情報を各学年の掲示板にて周知している。
薬学教育評価委員会提言内容	学生は、目的を理解していないようです。試験スケジュールと掲示のタイミングに工夫が必要と思われます。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
改善状況の詳細	
今後の改善計画 (改善が未了の場合)	薬学部では、2～6学年の科目において異議申立制度を導入している。本年度は年度始めのガイダンスの他に、各学年の掲示板および各定期試験時期に行う Moodle メッセージにより通知を行った。Moodle のコースではほぼすべての学生の閲覧履歴が確認されるため、本制度の周知は進んでいると考えられる。ただし、実施する目的については学生の理解が得られていない可能性があり、次年度からは各学年のシラバスに本制度について明記するとともに年度始めのガイダンスでは丁寧な説明を行う予定である。

根拠資料	
------	--

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会 によるコメント （評価がB又はCの場 合）	シラバスへの明記と年度始めのガイダンスでの説明が期待される。

■ 提言内容

整理番号	シート 13 / 点検・評価項目 1
点検・評価項目	ディプロマ・ポリシーに掲げる学生が身につけるべき資質や能力の達成状況 に関して評価する取組を実施している。
教務委員会の 自己点検・評価の詳細	ディプロマ・ポリシーに掲げる学生が身につけるべき資質や能力として「卒 業時コンピテンシー」を定めるとともに、その達成状況を評価する仕組みと して「コンピテンシー達成ロードマップマトリックス」を作成している。今 後、この活用方法を検討していく予定である。
薬学教育評価委員会 提言内容	「コンピテンシー達成ロードマップマトリックス」を活用する体制を整備す ることが望まれる。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
改善状況の詳細	

今後の改善計画 (改善が未了の場合)	ディプロマ・ポリシーに掲げる学生が身につけるべき資質や能力の達成状況を評価するために「コンピテンシー達成ロードマップマトリックス」を作成し、毎年度に科目担当者が内容を確認し更新している。今後は教学 IR センターと連携して学修目標の到達度を数値化・可視化する取り組みを開始する予定である（根拠資料 4）。
根拠資料	根拠資料 5：DP 到達度の可視化の検討について（令和 7 年度 第 10 回 全学教育推進機構委員会資料）

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会 によるコメント (評価が B 又は C の場 合)	学修目標の到達度を数値化・可視化する今後の取り組みが期待される。

■ 提言内容

整理番号	シート 13 / 点検・評価項目 2
点検・評価項目	ディプロマ・ポリシーに掲げる学生が身につけるべき資質や能力の達成状況に関する評価結果について、卒業認定又は認定に至る過程において活用している。
教務委員会の 自己点検・評価の詳細	通番 1 に記載したように、「卒業時コンピテンシー」および「コンピテンシー達成ロードマップマトリックス」を定めているが、卒業に至る過程において、修得すべき単位数以外の学生が身につけるべき資質・能力の評価に活用できていない。これらを客観的に評価できるように評価時期、評価方法等を検討し、体制を整備する予定である。
薬学教育評価委員会 提言内容	「コンピテンシー達成ロードマップマトリックス」を活用する体制を整備することが望まれる。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
------	----------

改善状況の詳細	
今後の改善計画 (改善が未了の場合)	「シート 13 / 点検・評価項目 1」に記載した「コンピテンシー達成ロードマップマトリックス」を活用する体制を整備する。学修目標の到達度を数値化・可視化することを目指し、薬学部教務委員会が中心となり実際の運用法を検討する予定である。
根拠資料	

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会 によるコメント (評価が B 又は C の場 合)	学修目標の到達度を数値化・可視化し、運用されることが期待される。

■ 提言内容

整理番号	シート 18 / 点検・評価項目 1
点検・評価項目	学生が身につけるべき資質・能力の達成度を評価する取組を行っており、その結果を集計している。
教務委員会の 自己点検・評価の詳細	<p>学修成果の評価に関わる方針として、全学における「学修成果の評価検証方針及び指標」のほか、薬学部の CP に基づく学修成果の評価についてアセスメント・ポリシーを定めている。薬学部ではアセスメント・ポリシーに基づき、教育要項（シラバス）において、各科目が学修成果（アウトカム）と、その達成度を測定するための指標である到達目標、レポートや試験結果等の評価の配分を含めた成績評価方法を明示しており、これらに基づいて厳格かつ公正な成績評価を行い、その結果を集計している。</p> <p>また、本学では、本学の学生が卒業時に身につけておくべき具体的な資質や能力について、学則や DP に基づく「卒業時コンピテンシー・コンピテンシー」として定めることを進めている。薬学部でも、令和 3 年度に「岩手医科大学薬学部コンピテンシー」を定めており、更に、1 年次から 6 年次までの全ての履修科目において卒業時コンピテンシーの達成度の評価を平準化するため、「コンピテンシー達成ロードマップマトリックス」を作成した（令和 4 年度改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく新教育プログラムに準拠したコンピテンシーは、教員研修会での議論を重ねながら作成中）。但し、評価の時期や評価方法については検討中である。</p>
薬学教育評価委員会 提言内容	卒業時コンピテンシー達成度の評価の時期や評価方法について確定させることが望まれる。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
改善状況の詳細	
今後の改善計画 (改善が未了の場合)	卒業時コンピテンシー達成度の評価の時期や評価方法を検討中であるが、学年末の成績通知においては学生自身がディプロマ・ポリシーの達成状況を段階的に確認し、クラス担任が行う学生面談においてはフィードバックや学修のアドバイスに活用することなどを想定している。コンピテンシーの達成度を形成的に評価するとともに、卒業認定においては単位修得では評価できない資質・能力の総括的な習熟度を確認することに活用する。

根拠資料	
------	--

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会 によるコメント （評価がB又はCの場合）	卒業時コンピテンシー達成度の評価の時期や評価方法について確定させることが望まれる。

■ 提言内容

整理番号	シート 18 / 点検・評価項目 2
点検・評価項目	学生が身につけるべき資質・能力の達成度を評価する取組の結果について検証を行っており、カリキュラムの検討・改善・向上の資料として活用している。
教務委員会の自己点検・評価の詳細	学修成果の評価結果をカリキュラムの検討・改善・向上することに関しては、授業アンケート等の結果に応じた各授業責任者による改善の他、成績評価に基づく補習講義の導入や、学生の負担感軽減の為に試験日程やレポート提出期限の科目間調整など、カリキュラムの検討・改善・向上に活用している。今後、学修成果の評価結果を教育プログラム全体の編成や実施の改善に組み込むにあたっては、「岩手医科大学薬学部コンピテンシー」に基づく「コンピテンシー達成ロードマップマトリックス」に評価の時期や評価方法を組み込み、総合的な学修成果の可視化を進められるよう検討を行う必要がある。
薬学教育評価委員会提言内容	総合的な学修成果の検証結果を、カリキュラムの検討・改善・向上の資料として活用することが望まれる。

■ 改善状況について

改善状況	改善計画が進行中
改善状況の詳細	
今後の改善計画 (改善が未了の場合)	コンピテンシー達成ロードマトリックスを活用して各学生の達成度を評価するとともに、プログラムとしての総合的な学修成果の可視化を進め、カリキュラム編成の検証を定期的に行う。達成度が十分でない資質・能力が明らかになった場合には、評価方法および授業内容の見直しを行い、カリキュラムの改善に活用することを予定している。
根拠資料	

■ 改善状況の評価（薬学教育評価委員会記入欄）

評価結果	A（改善を確認した） / B（改善計画の継続が期待される） / C（改善計画の見直しが必要）
薬学教育評価委員会 によるコメント （評価がB又はCの場合）	コンピテンシー達成ロードマトリックスを活用して、カリキュラムの検討・改善・向上の資料として活用されることが期待される。具体的な活用方法について更なる検討が必要と考えられる。